



楓の森アップデート2



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第24号
令和7年3月5日(水)
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓 「志高く 道を拓く」

○学校教育目標 「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

命を守る交通教室

春は、転勤等もあり、なれない土地で運転している方が多くおられます。また、免許取り立ての「わかばマーク」の自動車も多いようです。さらに、最近、本校でも交通事故にあった児童や交通事故になりそうになった児童がいます。合志市は、交通渋滞が至る所であります。その渋滞している自動車のすき間を通して道を渡ろうとすると、危険な目に遭います。

そのようなことから、「子どもたちの命を守るために」3月5日、交通教室を行いました。まず、多目的室で校長講話を行いました。(以下、校長講話の内容)

.....校長講話.....

今日は、臨時に交通教室を行うことになりました。それは、「自分の命は自分で守る」ことができる子になってほしいからです。おうちの人が近くにいない時でも、自分で考えて命を守る行動ができるようになってほしいです。もうすぐ春休みが始まります。春休みは、子供だけで過ごすことがあるでしょう。3月の終わりから4月にかけては、お引っ越しなどもあり交通量が増え、交通事故も多い時期になります。

もし、君たちが交通事故にあったら、おうちの人は、とてもとても悲しみます。どんな気持ちになるのか考えたことがありますか？今から、交通事故で子どもを亡くしたお母さんの手紙を読みます。

今朝ネ、直樹の夢を見ました。パタパタと走って来て、あの頃と同じように私のお腹の上に乗って来たので「アッ、直樹だ」と思い、ギュッと抱きしめてとても幸せでした。

直樹は、平成9年8月29日に6歳と7ヶ月で交通事故によって亡くなった私の次男です。相手は大型ダンプで、直樹は塾に行く途中の自転車でした。

死因は脳挫傷でした。身体にはほとんど傷もなく、まるで眠って居るようでした。でもその眠りは二度と覚める事はなく、あとの数時間は直樹の命が消えて行くのをただ見守る事しかできませんでした。不思議な数時間でした。

直樹を失って、様々な変化が起こりました。直樹に直接「塾に行く様に進めた」祖母(義母)が自分自身を責めて、事故のあった土地には辛くて居られないと言って引っ越ししてしまいました。ただ一人の弟を失った長男は、以前にも増して甘えっ子になり、一人で居るときは「つまらない」を連発します。事故の前夜、二人で楽しく遊んでいた姿が焼き付いて離れません。又、私には未だに直樹の行っていた公園に行けませんし、好きだったマーボー豆腐も作れなくなりました。以前、よく人は「〇〇のことは一日も忘れたことがなかった」などと言う言葉を耳にし、そんなことがあるかしら？と書いておりましたが、直樹を失って、

それは本当だと判りました。特に、夜寝るときに思い出したら涙が出て眠れなくなり、不眠状態になったこともあります。一生抱えて生きていくのはもう辛くてイヤだと、私はサッサと死んでしまいたいと何度も思い、その度に、遺される子供のことを思って頑張り、いつかは直樹に会えるのだからと自分に言い聞かせています。

交通事故は、悲劇です。一生続く傷を心に刻み付けています。今、私は車の中に直樹の写真を乗せて運転をしています。今日の被害者が明日の加害者にならないように、直樹の顔を見ては安全運転に心掛けています。

私のお友達も弟さんを事故で失っています。

こんな思いをする人々が一人でも減ることを心から願ってなりません。私は、今日も寝るときに直樹に話しかけます。「夢でいいから出てきてネ、お母さんは直樹に会いたい」と・・

『癒されぬ輪禍』(北海道警察本部監修、財団法人北海道交通安全協会発行)

<https://www.npa.go.jp/hakusyo/h17/hakusho/h17/html/G1000002.html>

もし、みなさんが交通事故にあったら、おうちの人はこのお母さんのように一生悲しみに暮れることとなります。こんな気持ちにさせてはいけません。子どもの交通事故の原因で一番多いのは「飛び出し」です。「㊦まれ ㊦つ ㊦びださない」、「と」、「ま」、「と」をしっかりすることで、「自分の命は？」・・・(児童:自分で守る)を心がけましょうね。交差点や道路を渡るときは、しっかり止まって、左右を確認して、渡るようにしましょう。

その後、実際に渋滞を想定した横断歩道の渡り方の実技講習を行いました。



楓の森小HP

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

